

情報検索指導における良い例題・悪い例題 《応用編》 ーデータベースの特徴を紹介する方法ー

仁上幸治（早稲田大学図書館）

■概要

情報専門職の指導力を講習会でアピールしよう！

レポート・論文執筆のために論文を探す学生・院生の多くは、検索エンジン万能信仰の中で論文データベースや電子ジャーナルの存在を知らず、プリント版全文の入手に必須な所蔵検索ができない。即時利用可能な資料を利用できない利用者の層は、教育研究の質を低下させ、図書館の資料費・人件費の投資効率を悪化させている。この状況を打破するには、図書館員が大学全体の情報リテラシー教育の底上げに積極的に貢献することが必要である。特に講習会は、情報サービス専門職の存在理由を学生・院生や教職員に訴求する絶好の機会になる。好評の初級編・中級編に続き、今回は論文データベース講習会の実演の中で、各データベースの特徴を適切に紹介する例題の作り方を解説する。参加者による各地での取り組みの成果と問題点について事前に情報提供を呼びかけ、使っている例題、困っている点などの情報を交換し、《例題バンク》による共有と活用を目指す。

■日時:2007 年 11 月 8 日(木)15:30-17:00 ■会場:パシフィコ横浜 図書館総合展フォーラム第 5 会場 ■対象者:図書館職員、教職員、JLA 会員、関係団体の講習会担当者 ■主催:日本図書館協会 ■参加費:会員 500 円／非会員 1000 円 ■申込先:cue@jla.or.jp 事務局 担当久保木宛。氏名、氏名ヨミ、会員番号、所属、住所、電話番号、電子メールアドレス、例題づくりで困っている点、質問・要望など明記。■定員:200 名(先着順受付) ■締切:11 月 1 日(木) ■詳細:図書館利用教育委員会 <http://www.jla.or.jp/cue/>

■内容

【0】はじめにー専門職崩壊状況で

- ・事前アンケート
- ・今回の範囲

【1】前回までの復習

- ・初級編
- ・中級編
- ・応用編

【2】早稲田大学所沢図書館の状況

- ・図書館オリエンテーション
- ・データベース講習会
- ・学科目内出前授業

- ・基礎教養科目における『情報の達人』の活用

【3】実演と解説

- 例題 1
- 例題 2
- 例題 3
- 例題 4

【4】応用編のまとめ

【5】例題づくりの展望

- ・情報リテラシー教育における例題の重要性
 - ・図書館員の専門性発揮の場
 - ・初級編・中級編の連続講座カリキュラム化
 - ・例題づくりワークショップ
 - ・トサケンの「例題バンク」が目指すもの
-
- ・質疑応答
-
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会から
 - ・アンケート

- 資料 1 : 初級編の復習
- 資料 2 : 中級編の復習
- 資料 3 : 講習会進行表
- 資料 4 : 練習問題と正解例
- 資料 5 : オンラインアンケート
- 資料 6 : 参考文献一覧
- 資料 7 : 参考サイト一覧
- 資料 8 : 講師紹介（最近の活動から）

■資料 1 : 初級編の復習

●初級編「：フライデーナイトセミナー」(2005 年 5 月 27 日(金):日本図書館協会)

図書館による情報検索の講習会や授業の中で、わかりやすい説明をするには適切な例題が必要である。しかし、いざ実際に例題を作るとなるとそう簡単ではない。インターネットの検索エンジンで検索できる範囲、無料サイトと有料データベースの差、書誌検索と所蔵検索の違い、検索ツールの種類、電子化以前と以後、などの基礎知識を理解してもらうにはどんな例題が良いのか。どのサイトでどんな検索語と検索式を見せるのが適切か。今回は、これから講習会を始めた方、改善したい方向けに、良い例題・悪い例題の実例を紹介し、素材の集め方からプレゼンテーションまで、実践上のポイントを提示する。

◎報告 : http://www.jla.or.jp/cue/friday5_f.html

●初級編(改訂再編): 図書館利用教育実践セミナー第6回 2006 年 3 月 18 日(土) キャンパスプラザ京都

アンケート結果:「セミナーに参加して「大変良かった」という回答が全体の 79%、「良かった」が 20%、合計 99%。「目からウロコ」「本当に来てよかった!!!」「これほど充実しているとは!」「とても楽しく密度が濃い」「最近参加したセミナーで最も有用な内容」「魅せられた」「視覚」の大切さを実感」「テンポが良くて楽しい」「知りたいことを次々に答えてもらった」「もとは取れた!」「中上級編もぜひ」「もっと関西で開催を」など。(『図書館雑誌』2005 年7月号 p.422-423 を参照)

◎資料と報告 : http://www.jla.or.jp/cue/friday6_f.html

■資料 2 : 中級編の復習

●図書館総合展 2007 フォーラム講演会 (主催: 日本図書館協会) ■日時:2006 年 11 月 22 日(水)15:30-17:00

指導サービス専門家に变身しよう!

書誌データベースや電子ジャーナルの存在を知らない、使い方がわからない、せっかく論文リストを入手したのに所蔵検索ができないという学生・院生が実に多い。その結果、ILL 複写取寄申込件数のうち、「当館所蔵あり」「電子ジャーナル全文閲覧可能」という差戻し回答の比率が上昇する。巨額なデータベース費の投資効率の低下は大学にとっては深刻な経営問題であり、学生・院生の文献調査能力の低下は教員にとっては教育指導の前提の崩壊である。レファレンス担当者は業務の合理化・高度化を図るために、窓口での個別対応以外に、情報リテラシー教育関連科目やデータベース講習会、e ラーニング教材の充実など、情報検索の学習機会を増やし、理解度・習熟度を向上させる対策に立ち向かうほかない。ところが、いざ教材コンテンツを作るとなると、購読契約条件の複雑さや大学や専門分野によるニーズの違い、利用者側の情報リテラシーレベルの差など、考慮すべき要素が多すぎて、適切な例題を用意することが非常に難しくなっている。しかし、複雑な仕組みをわかりやすく説明することこそが指導サービス専門職の存在理由である。前回の初級編「素材を集め問題を作り要点を説明する方法」に続き、今回は大学高学年・大学院生向けのデータベース講習会における例題の作り方を取り上げる。

◎報告

日本図書館協会(企画・運営:図書館利用教育委員会)は、2006 年 11 月 22 日、パシフィコ横浜で行われた第8回図書館総合展において、講演会を開催した。今回は、仁上幸治氏(早稲田大学図書館)を講師に迎え、「情報検索指導における良い例題・悪い例題(中級編)ー専門分野別データベースの特徴を紹介する方法ー」というテーマで講演が行われた。

講演では、初級編の復習を行ったのち、利用者が検索できない理由、データベース講習会の内容、図書館の説明が分かりにくい理由、図書館員に求められる専門性について述べられた。このうち、図書館員に求められる専門性としては、要約力、表現力、説明力、指導力があると指摘された。最後に、情報リテラシー教育への貢献策として、①データベースのシステム改良、②授業科目と講習会との統合、③司書課程の改革、④研修の改善を提案された。講演後には、質疑応答が活発に行われた。

講演会には、大学を中心とした各館種の図書館員や教員など 161 名が参加した。アンケートでは、講演会に参加して「大変良かった」という回答が 42%、「良かった」という回答が 43.5%で、良いという評価が 85.5%に上った。講演の感想としては、「テンポが良くてわかりやすい」「楽しくてためになる」「時間がもっとあれば良い」「初級編の時よりも具体的な例題が少ない」などが寄せられた。(春田和男:筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程)

◎資料と報告: http://www.jla.or.jp/cue/sogo8_f

■資料 3 : 講習会進行表

所沢図書館 データベース検索講習会 進行表 2007 (90 分版) ver. 4: 2007. 5. 29 作成

時 分	時 間	#	コマ	内容
-15		*	会場設営・機器設定	
-10			スライドショー表紙投影	
			受付	各ゼミごと、+個人
00	3		会場閉鎖、当日キャンセル待ち入場、遅刻者待機	
	1		講習会開始挨拶	
	1	0	イントロ	
				《WasedaNet ポータル》と所沢図書館ホームページを開いて待機
				本日の資料: 練習問題、正解例を開く
				メモ帳、ショートカットキー ([Ctrl]+[N], +[A], +[C], +[V])
				スタッフ紹介、講師挨拶
				本日のメニュー
	3	0	実力診断用「事前アンケート」記入	《WasedaNet ポータル》のアンケート機能
	2	1	第1部: 論文検索の基礎知識	
				先行研究調査
				論文の構成
				論文の書誌データ
				二つの検索: 書誌と所蔵
				基本3ステップ
				データベースの内容と種類
	55	2	第2部: 論文データベース	
				日本語論文
			1	1) CiNii
				・例題: キーワード検索
				・練習問題3: 誌名一覧から探す
				外国語論文
			2	2) Web of Science
				・練習問題4: 野村忍
			3	3) PsycINFO ★第3回からカット
				・例題: キーワード検索
				・練習問題5: 著者+論題ワード、件名
			4	4) PubMed
				・練習問題
				・J-Stage、WINE、ポータルへのリンク

				* その他のデータベース
				2) 医中誌 Web
				7) J-Stage
				4) JDream2
				8) Sport Discuss
				9) Health and Wellness
				10) ScienceDirect
				11) SCOPUS
				12)その他
10	6	第 3 部:所蔵検索		
				1) WINE
			5	例題1: 日本語タイトル検索>所蔵
			6	例題2: 日本語タイトル検索>電子ジャーナル
				練習問題 1:英語キーワード検索
			7	2) NACSIS-Webcat
				・練習問題6: 省略形から
				3)国会図書館 WebOPAC
				4)その他の図書館
5	8	第 4 部:他館からの取寄サービス		
				ILL 申込書
				学内・学外ILL
				現物・コピー・電送
				手配条件
				出典
				所蔵検索結果
				申込書ダウンロード
				オンライン化計画
3	9	第 5 部:上級への道(予告編紹介のみ)		
				OPACから電子ジャーナルへ
				学術情報検索(リンク集)
				電子ジャーナルポータルから
				掲載誌のホームページから
				ウェブ上の無料公開論文全文
				著者ホームページ
				論題からフレーズ検索する
				ページ内検索
				図書館ホームページを基点とする情報検索
				情報検索リンク
				科学専門の検索エンジン: Scirus
				情報検索関連の蔵書の紹介
2	10	まとめ		
				検索のコツの復習
				本日の資料: スライドなどは近日ホームページ公開予定
				質疑応答
5	11	成果確認用「事後アンケート」記入		《WasedaNet ポータル》のアンケート機能
	1	撤収		
	2			
計	90	分		

■資料4： 練習問題と正解例

所沢図書館 論文データベース講習会《練習問題》正解例 2007 年度：5/10（木）-22（火）

Q1)《CiNii》：「睡眠 身体 心理」関連の日本語の論文を網羅的に入手したい。

ヒント：簡易検索で、思いついた単語を羅列する。

1. [110004749787]荒井,弘和; 中村,友浩; 木内,敦詞; 浦井,良太郎

主観的な睡眠の質と身体活動および心理的適応との関連

心身医学 46(7),667-676,20060701(ISSN 03850307)

(日本心身医学会 編/日本心身医学会/日本心身医学会)

■収録データベース：CJP 書誌 NDL NII-ELS

本文：CiNii PDF 抄録 参考文献:26 件 [医中誌] [FindFulltext][RefWorks][早稲田所蔵]

表示順は変更できる。[出版年（新しい順 / 古い順） | 雑誌名（昇順 / 降順） | 被引用件数（降順）]

出版年で絞り込むこともできる。[本文]の[CiNii PDF]アイコンをクリックすれば、全文をダウンロードできる。その他、各アイコンをクリックすると、様々な情報が得られる。

Q2)《CiNii》：「心身医学 46(7) (2007)」の目次を一覧したい。

ヒント：左のメニューの[一覧から探す]から掲載誌名、巻号を探す

左のメニューの[一覧から探す] から雑誌名の「シ」>>心身医学>>46(7)：[表示]

解説：例えば、「10. 音楽療法でリラックスできた心身症の1例(第54回 日本心身医学会中部地方会演題抄録,地方会抄録,学会報告)・・・679」を発見できる。ここで、[本文: CiNii]ボタンで全文をダウンロードできる。

Q3)《Web of Science》：野村忍先生の全英語論文リストを作りたい。また、2003年の論文の被引用回数を知りたい。

ヒント：[general search]を選択。Citation Databases で、Science Citation Index Expanded (SCI-EXPANDED)--1981-present のみに限定。検索期間を限定することも可能。<author>欄で。JFK は「kennedy▲j*」。所属機関で絞り込むには、<address>欄に「waseda▲univ」。

[general search]で、author=「nomura▲s*」、address=「waseda▲univ」。新しい順に表示されるので、2003年刊行は4件目なので、<Full Record>を開き、書誌データのあとにある[times cited]の数を見る。

1. Nakao M, Yano E, Nomura S, et al.

Blood pressure-lowering effects of biofeedback treatment in hypertension: a meta-analysis of randomized controlled trials
HYPERTENSION RESEARCH 26 (1): 37-46 JAN 2003

Times Cited: 7 >> 正解：7件。

解説：所属機関による限定はあくまで論文提出時のものなので転属履歴がある場合はそれぞれの機関名で別途検索。欧文論文の検索には、他に《SCOPUS》等のDBがある。日本語図書・博士論文は《国会図書館 WebOPAC》、日本語論文は《CiNii》、和洋の会議録系は《JDream》などで検索する。本人ホームページの業績欄は最初に要チェック。

Q4)次の論文を《PsycINFO》で検索して、全文、引用文献リスト、被引用文献リストを入手しよう。さらに、付与されているサブジェクトの「Self Perception」で検索して、5番目の Carlston 著の論文の全文を入手しよう。

Fenigstein, Allan; Vanable, Peter A.; Paranoia and self-consciousness. Journal of Personality and Social Psychology, Vol 62(1), Jan 1992. pp. 129-138.

検索条件：著者で「Fenigstein」、書名で「Paranoia」で検索し、Fenigstein 著の該当論文をゲット。下段の各アイコンをクリックして各種リストをゲット。サブジェクトの「Self Perception」で検索して、5番目の Carlston 著の論文を見つけたら、[Find Full Text]でリンクをたどり、《ScienceDirect》の中の[View This Article]ボタンで全文をゲット。

Q5)次の論文を《PubMed》で検索して、掲載誌の詳細情報を見よう。

Oumi M, Miyoshi M, Yamamoto T.

The ultrastructure of skeletal and smooth muscle in experimental protein malnutrition in rats fed a low protein diet. Arch Histol

Cytol. 2000;63(5):451-7.

「Oumi skeletal」で検索、2 番目。 クリック可能な著者名またはアイテム番号下の論文アイコン>>詳細書誌>>掲載誌名[Arch Histol Cytol]をクリック、<Links>で[journals]を選択。
全文を見たいときは、詳細書誌画面で右の[J-STAGE]アイコンをクリック。

Q6) 《JDream II》「健康 スポーツ」関連テーマに関する最新の研究動向についての英語のレビュー論文を入手したい。

ヒント：<JMEDPLUS>でキーワードから検索して、[検索結果を絞り込む]で限定して絞り込む。

キーワード＝「健康」 and 「スポーツ」、5013 件。、[検索結果を絞り込む]：発行年＝最新3年、記事区分＝文献レビュー、言語＝英語 >> 「スロベニア地域の職業医学 BILBAN Marjan J Occup Health Vol.47, No.3, Page193-200 2005.05」

Q7) 『日本心理学会大会発表論文集』67回(2003年)を入手したい。WINEで所沢図書館の所蔵を確認してください。さらに、中央図書館の請求記号と《現況》欄の記載内容を書き写してください。

★ヒント：<タイトル検索>を使い、書誌・所蔵画面で所蔵館、所蔵巻号、所蔵年を確認し、下方の **[所蔵一覧の表示]** をクリックして 全所蔵を表示 し、末尾まで見る。

WINE>>タイトル検索「日本心理学会大会発表論文集」>>3 件中の3 件目>>[所蔵一覧の表示]>>「中央 B2 研究書庫 140 00044 67＝ 第 67 回 利用可能」>>解答：所沢図書館：「47-70<1983-2006>」。中央図書館：「140-44-67」 「利用可能」

解説：《WINE》では、双書扱いの所蔵データは下段の所蔵一覧に表示される。雑誌については、中央図書館だけは図書同様に請求記号が付与されているので、巻号に対応する小番号まで確認する必要がある。

Q8) 『国立特殊教育総合研究所研究紀要』v.29(2002) p.55-72 の論文を入手したい。WINEでオンラインのリンクを辿って、該当論文を見つけてください。著者は誰でしたか？

★ヒント：<タイトル検索>を使い、ヒットした複数の簡略書誌を開いて、その中から 2002 年分を含むものを見つけて、オンラインのリンクをたどる。

WINE>>タイトル検索「国立特殊教育総合研究所研究紀要」>>リンク情報：[オンライン版]>>国立特殊教育総合研究所 HP-刊行物一覧-研究紀要-「A-29 国立特殊教育総合研究所研究紀要 第29巻 14. 2」>>「触る絵本による教育的係わり合いー視覚障害幼児の事例についてー 金子健 55-72」>> 解答： 金子健

Q9) 《WINE》：<キーワード検索>を使って、オンラインのリンクを辿り、該当論文をダウンロードして課題ページを表示してください。

「Bagenstose. Mercury-induced autoimmunity in the absence of IL-4, Clin. Exp. Immunol. 114(1), 9 Oct 1998」

★ヒント：WINEの<キーワード検索>では、アスタリスク「*」を2個使う。日本語の場合は、単語の間を「and」でつなぐ。英語の場合は「and」不要。

<キーワード検索>＝「clin**▲exp**▲immunol**」>> 簡略表示に4 件中2 件目「Clinical and experimental immunology [electronic resource]」を選択>>リンク情報：[Click here for full text]>>早稲田大学電子ジャーナルポータル>>[More full text options]>>[View This Journal]>>1998 111(1) - 114(3)>>[October 1998 (Vol. 114 Issue 1 Page 1-136)] >>page 9。ちなみに PDF のサイズは 170KB。

Q10) 《WINE》：<キーワード検索>で、ヒットした図書の1 件目の書誌データの一番目の件名を見つけ、所沢図書館に所蔵館を限定し、その件名を持つ洋雑誌を見つける。

<キーワード>＝「視覚▲and▲視力▲and▲not▲聴覚」>>「所沢図書館」限定>『スポーツビジョン』>>件名「運動医学」>>「運動医学—雑誌」>>5 件：1)臨床スポーツ医学、2)The American journal of sports medicine、3)International journal of sports medicine、4)Journal of human movement studies、5)Sportsmedicine。

Q11) 《WINE》の ISBN /ISSN 検索で、所蔵を確認する。

トレーニング用語辞典 / Fit Plus 編集・構成 ; 石井直方 総監修 ; 有賀誠司 [ほか]監修 東京 : 森永製菓健康事業部, 2001.12 ISBN=494410653x

《WINE》で、<ISBN/ISSN 検索>=「494410653x」>>トレーニング用語辞典 所沢図書館 参考図書 780.7 ト

Q12) 《NACSIS-Webcat》の：標準番号検索で、目録番号と所蔵館を確認する。 ISSN=09149465

標準番号=「09149465」>> Archives of histology and cytology>>早大所沢 雑誌 53-66,67(1)<1990-2004>+ 慶大医 51-68<1988-2005>+ 他。目録番号=「AA1068990X」。学外への取寄せ発注処理はこの目録番号がキーになるので、所蔵検索結果欄に必ず転記を。記載のない場合は担当者が検索しなおす必要があるため、処理が遅れるので要注意。

Q13) 参考文献リストにあった論文をプリント版から入手したい。

「Sandra L. Nehlsen-Cannarella, Saliva immunoglobulins in elite women rowers, *Eur. J. Appl. Physiol.* 81(2000) p.222-228」
NACSIS-Webcat で所蔵館を確認して、一番アクセスしやすい館名を書いてください。

★ヒント： NACSIS-Webcat では、省略形には、トランケーション（「*」アスタリスク）を使う。トランケーションを使う場合は、検索語は二文字以上必須となるので、「J」は「jo*」とする。

<タイトル・ワード>=「eur*▲jo*▲appl*▲physiol*」>>該当件数 4 件中3番目「3.European journal of applied physiology. -- Vol. 81, no. 3 (Jan. 2000)-」>>詳細表示で所蔵館 84 館>>音読み「ソ」の項目を見る>>所沢図書館

解説：ちなみに、電子ジャーナルは以下の手順でゲットできる： 簡略表示>>4件中4番目「4.European journal of applied physiology [コンピュータファイル (リモートファイル)]」>> 詳細表示画面>>URL をクリック>> SpringerLINK>>Volume 81>>Number 3(165 - 258)>> pp. 222 - 228 >>PDF : Open : [EntireDocument]>>全文ゲット

Q14) 《Google》：<フレーズ検索>で、雑誌“Archives of histology and cytology”の出版社サイトにある雑誌ホームページを見つけてください。

★ヒント：《Google》の検索オプションの窓を開いて誌名を入力するか、検索窓に誌名をダブルクォーテーション「””」で挟んで入力する。1件目にずばりヒット。

解説：検索エンジンでは、ヒット件数の表示順はページランクのシステムが決める仕組みになってる。アクセス数、リンク状況、権威、広告など様々な要素で変動するものであることを理解しておく。

Q15) 《Google》：<フレーズ検索>で下記論文の全文ページを見つけてください。

Harry M. Flechtner,

The Several Texts of the CISG in a decentralized System in Article 7(1),17" J.L. & Com. 187 (1998)

★ ヒント：ヒットした一番目を開いてみる。

解説：ヒットした文字列がどこにあるのかわからない場合は、ページ内検索（[Ctrl]+[f]）を使って、論題で検索して該当箇所を見つければ、著者、掲載誌、刊年月、掲載ページ等の書誌データを確認できる。さらに、クリックablになっている論文名をクリックすると全文ページに飛べる。検索エンジンからヒットしたデータは、あくまでもページ作成者による「引用」の文字列にすぎないので、書誌データの信頼性を保証するものではない。ウェブページの信頼性チェックする簡単な方法は、サイトの責任主体を確認することである。「go」「edu」「org」等の種別であれば、個人のページよりは概して信頼性が高い。とはいえ、書誌データの正確さを要する場合には権威あるデータベースで確認する必要がある。この例では、URL 「http://www.cisg.law.pace.edu/cisg/biblio/flecht1.html」のうち、「edu」の後をカットして[enter]で再検索すると、Pace University のサイト上の国際商法研究所のページであることがわかる。

以上

■資料5： オンラインアンケート

所沢図書館 データベース講習会 《事前アンケート》 2007 年度 2007. 5. 10-22

Q1 所属

人科 スポ科 人研 スポ研 人総研 スポ科研 他()

Q2 資格区分・学年

学部生:1年 2年 3年 4年 科目履修生

大学院生:M1 M2+ D1 D2 D3+

助手 助教 秘書 TA 教員 職員 他()

Q3 所属研究室教員名()

Q4 Q0. 今回の講習会を最初に何で知りましたか? (○をつける)

1.ポスター 2.図書館ホームページ 3.早稲田ネットポータル 4.教員 5.友人 6.先輩 7.他()

Q5 参加した理由は?

1.ゼミ単位で全員参加を指示された 2.教員に指示・推薦された 3.自分で受講することにした 4.他()

Q6 図書館オリエンテーションを受けましたか? 1.はい 2.いいえ

Q7 図書館の検索講習会を受けたことがありますか? 1.はい 2.いいえ

Q8 授業で文献データベース検索について習ったことがありますか? 1.はい 2.いいえ

以下は、文献データベースの知識について、ありのままにお答えください。

Q9 日本語の論文をテーマから探して、電子ジャーナルで全文を入手したい。

Google WINE 雑誌記事索引 CiNii 医中誌 Web JDream2

Q10 英語の論文を、日本語の画面と日本語の検索語で探して、抄録を入手したい。

Google WINE CiNii JDream2 Science Direct

Q11 自分の指導教員が書いた英語論文を網羅的に探して論文リストを作成し、各論文の被引用回数を調べたい。

Google WINE CiNii JDream2 Web of Science Scopus

Q12 心理学分野の最新の研究動向についての英語のレビュー論文を探したい。

Web of Science SociolAbst PsycINFO PsycARTICLE JDream2

Q13 医学・薬学分野の英語論文について、研究テーマのキーワードから網羅的に調べて、論文リストを作りたい。

医中誌 Web PubMed Web of Science PsycINFO JDream2

Q14 作った論文リストをもとにして、それぞれの論文の全文を入手するため、各掲載誌のプリント版が本学の図書館に所蔵されているか、契約している電子ジャーナルで読めるかを調べたい。

WINE 雑誌記事索引 CiNii JDream2 NACSIS-Webcat

Q15 早稲田大学の蔵書目録(WINE)で、短縮形(例:j appl phys)から検索する場合、使う検索項目は?

タイトル 著者名 キーワード 件名

Q16 読みたい論文の掲載誌が早稲田大学に所蔵されていない場合、他大学の所蔵状況を一度で調べるには?

WINE KOSMOS2 NACSIS-Webcat 国会図書館 NDL-OPAC

所沢図書館 データベース講習会 《事後アンケート》 2007 年度 2007. 5. 10-22

[事前アンケートの Q9-Q16 と同じ設問のあとに以下の評価 14 問]

■総合評価

Q1. 今回の講習会に参加して、満足度は5点満点段階評価

で何点ですか?

記述:感想をひとことで:

■理解度・動機づけ度

Q2. 文献調査のための DB 活用法の基本がわかりました

か?

Q3.今後、さらに DB を活用しようという気持ちになりましたか？

Q9.画面は見やすかったですか？

Q10.照明の調節は適当でしたか？

Q11.音量は適当でしたか？

■内容は役立つものでしたか？

Q4.パソコン操作

■プレゼンテーション

Q5.データベースの種類

Q12.声は聞き取りやすかったですか？

Q6.論文の引用と被引用

Q13.スライドはわかりやすかったですか？

Q7.全文リンクと所蔵リンク

Q14.説明はわかりやすかったですか？

Q8.他館からの取寄サービス

■その他、ご意見ご感想ご要望など

★記述

■プレゼンテーション環境

■資料 6： 参考文献一覧

●司書の専門性

- ・小菅正夫『「旭山動物園」革命一夢を実現した復活プロジェクト』角川書店、2006. 11.
- ・日本経済新聞、2004. 6. 24、39 面「図書館運営、紀伊国屋書店に委託—江戸川大、開業時間も延長」
- ・日本図書館情報学会研究大会シンポジウム記録「図書館情報学教育の現在と今後の展望—LIPER の研究成果をどう見るか—」(2005. 10. 23) , 日本図書館情報学会誌, 52(1), pp.56-59, 2006 March

●ガイドライン

- ・日本図書館協会利用教育委員会編『図書館利用支援ガイドライン—図書館における情報リテラシー支援サービスのために（合冊版）』日本図書館協会、2001. 8, 81p: ¥1500
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック（大学図書館版）』日本図書館協会、2003. 3.

●『情報の達人』の歴史

- ・仁上幸治『「図書館の達人」から『情報の達人』へ—利用者教育映像教材の進化 15 年の集大成』『図書館雑誌』101(4), 2007.4, pp.238-239.
- ・仁上幸治「情報リテラシー教育と新しい図書館員像—『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで」『館灯』41, 2003.3,p.39-52.
- ・日本図書館協会利用者教育臨時委員会「人・時間・予算の壁を破る利用者教育の強力ツール新登場」『図書館雑誌』1992.11,pp.798-799.
- ・日本図書館協会利用者教育臨時委員会「利用者教育ビデオシリーズへの熱い期待」『図書館雑誌』1993.8, pp.553-556.
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会, 2003.3

●情報検索の教科書

- ・情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』日外アソシエーツ、1997
- ・高銀裕樹『デジタル情報資源の検索 増訂版』京都大学図書館情報学研究会, 2007. 4
- ・原田智子 他『情報検索演習』3 訂、樹村房, 2006. (新・図書館学シリーズ, 6)
- ・緑川信之『情報検索演習』新訂、東京書籍, 2004.
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル—未知の問題をどう解くか』中央公論社, 2003. 9 (中公新書 1714)
- ・毛利和弘『文献調査法—調査・レポート・論文必携』第 2 版、日本図書館協会発売 2006.

●インターネット

- ・野口悠紀雄『インターネット超活用法 2001』講談社、2001、¥1400.
- ・アリアドネ編『思考のためのインターネット—厳選サイト 800』、筑摩書房、1999 (ちくま新書) ¥660
- ・二木麻里, 中山元著『書くためのデジタル技法』筑摩書房, 2001. 11
- ・津野海太郎, 二木麻里編『徹底活用「オンライン読書」の挑戦』晶文社, 2000. 8

- ・岡本真『これからホームページをつくる研究者のためにーウェブから学術情報を発信する実践ガイド (ACADEMIC RESOURCE GUIDE)』築地書館, 2006. ¥2,940.

●情報リテラシー教育

- ・慶應義塾大学日吉メディアセンター 編『情報リテラシー入門』慶應義塾大学出版会、2002、¥1,200 (本体)
- ・学習技術研究会編著『知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ』, くろしお出版, 2002.4 (CD-ROM 付)
- ・北尾謙治[他]『広げる知の世界ー大学でのまなびのレッスン』ひつじ書房、2005.5、¥1,600
- ・伊藤民雄・実践女子大学図書館編『インターネットで文献探索 2007 年度版』日本図書館協会, 2007.

●論文作成

- ・中尾浩・伊藤直哉『Windows95 版人文系論文作法』夏目書房、1998、¥2857.
- ・山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社, 2001.9
- ・澁谷恵宜『卒論応援団：はじめての「卒業論文」ラクラク基本マニュアル』クラブハウス, 2000.7
- ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK出版、2002.11、(NHK ブックス 954) ¥1,120
- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社, 2002.4(講談社現代新書, 1603)
- ・野口悠紀雄『「超」文章法ー伝えたいことをどう書くか』中央公論社, 2002.10(中公新書, 1662)

●プレゼンテーション

- ・石居進『理系のための Power Point 「超」入門ープレゼンテーションからホームページ作成まで』(ブルーバックス CD-ROM), 講談社, 2003, ¥1,995
- ・岩永嘉弘『一行力』草思社, 2004.4
- ・ブルボン小林『ぐっとくる題名』中央公論新社, 2006.9 (中公新書)
- ・諏訪邦夫『発表の技法ー計画の立て方からパソコン利用法までー』講談社, 1995 (ブルーバックス B-1099), ¥760.
- ・中川佳子『「情報を見せる」技術』光文社新書, 2003.7 ¥850.
- ・藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術ー意図を正しく伝えるための 16 のルールー』講談社, 1999.3(ブルーバックス, B-1245)
- ・藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術ー最強のプレゼンテーション 15 のルールー』講談社, 2002.10(ブルーバックス, B-1387)
- ・藤沢晃治『「わかりやすい表現」の技術』講談社, 1999. ¥800. (講談社ブルーバックス B-1245)
- ・藤沢晃治『図解「伝える」技術ルール 10ー話して伝える, 書いて伝える, 図表で伝える』講談社, 2006.10
- ・ボブ・ボイルン『プレゼンテーション成功の秘訣 13』TBS ブリタニカ, 1993. ¥1300.

●情報探索論

- ・岡澤和世「情報行動研究のコンテキスト」『JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE』Vol.16, p27-52 (2002)
- ・岡澤和世「情報ニーズの評価の必要性和問題点:D. Nicholas の論文を中心に」『JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE』Vol.12, p43-65(1998)
- ・北原俊一, 安達一寿「自習型 Web 教材および簡易学習支援システムの開発」『社会情報論叢 (十文字学園女子大学研究紀要)』Vol.7 2003), pp.1~10
- ・河野浩之 [ほか]著『情報検索とエージェント：インターネットの知的情報技術』東京電機大学出版局, 2002.3
- ・中村幸雄『情報検索理論の基礎ー批判と再検討』改訂増補版, 共立出版, 1998
- ・福永智子「講演 図書館利用教育研究における学習心理学的観点：クールソを中心に」『館灯』41, 2003, p.1-6.
- ・渡辺智山「情報探索過程を踏まえた検索システムの開発へ向けてーレファレンス・ブックを利用した探索過程の調査ー」『情報の科学と技術』52(3)、107-115 (2002)
- ・D.A. ノーマン、野島久雄訳『誰のためのデザイン？ー認知科学者のデザイン原論ー』新曜社、3300 円
- ・R.S. ワーマン『それは「情報」ではない。』M d N, 2001.
- ・R.S. ワーマン『理解の秘密ーマジカル・インストラクション』NTT出版, 1993.
- ・R.S. ワーマン『情報選択の時代』日本実業出版社, 1990. / 『東京アクセス』伊藤忠ファッションシステム, 1984.

●Google

- ・安藤進『Google に聞け！英語の疑問を瞬時に解決』丸善 2004.04、¥1,470
- ・ケイズプロダクション『Google の秘密』ソフトマジック、2003.11、¥1,680
- ・タラ・カリシェイン；ラエル・ドーンフェスト『Google ポケットガイド』オライリー・ジャパン(オーム社) 2003.10、¥1,260
- ・タラ・カリシェイン；ラエル・ドーンフェスト『Google hacksープロが使うテクニック&ツール 100 選ー』オライリー・ジャパン(オーム社)、2003.08、¥3,045
- ・津田大介『ググーー検索エンジン Google を使ってネット上の情報を検索することー』毎日コミュニケーションズ、2004.04、¥1,344

- ・水野貴明『Web 検索エンジン Google の謎ー知りたいページが必ず上位にランクされるのは、なぜ？ー』ソーテック社、2004. 04、¥1,869
- ・山名早人「見たいサイトが一発で出てくる検索エンジンの仕組みとは」『iNTERNET magazine』2004 年 1 月号（特集：Google 徹底解剖），pp. 88-91

●調べ方

- ・井上真琴『図書館に訊け!』筑摩書店、2004.（ちくま新書）¥777
- ・大串夏身『チャート式情報アクセスガイド』青弓社、2006. ¥1600.-
- ・田中共子『図書館へ行こう』岩波書店、2003.（岩波ジュニア新書）¥777
- ・時実象一『理系のためのインターネット検索術：ホンモノ情報を素早くみつける』講談社、2005. 2（ブルーバックス）¥840
- ・時実象一、小野寺夏生、都築泉『情報検索の知識と技術ー 情報検索応用能力試験 2 級対応テキスト』情報科学技術協会、2007. 5、¥2500.
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房 2007. 10（ちくま新書）¥756.

●パスファインダ

- ・愛知淑徳大学図書館インターネット情報資源担当編『パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践：図書館員のための主題検索ツール作成ガイド』愛知淑徳大学図書館、発売：紀伊国屋書店、2005. 2
- ・石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会『パスファインダーを作ろう：情報を探す道しるべ』全国学校図書館協議会、2005（学校図書館入門シリーズ 12）840 円
- ・鹿島みづき、山口純代「図書館パスファインダーに見る次世代図書館の可能性」『情報の科学と技術』 52(10), pp. 526-537（2002）
- ・鹿島みづき、山口純代「図書館パスファインダー次世代図書館に生かせる古くて新しい図書館の技術」『館灯』42, 2003, pp. 35-46.
- ・河上純子、仲尾正司、仁上幸治 他「パスファインダーバンクの実用化に向けてーWeb 版共同利用ナビゲーションシステム開発計画案」（私立大学図書館協会東地区部会 館長会・研究講演会、研究分科会報告大会記録 2001 年度『私立大学図書館協会会報』118, 2002. 11, pp. 183-188.
- ・椎葉もと子、他「3 形態・手段・方法：パスファインダー(Pathfinder)」丸本郁子、椎葉もと子編『大学図書館の利用者教育』日本図書館協会、1989, pp. 10-115.
- ・仲尾正司、中村亜日香、山田かおり、他「パスファインダーバンク実用化とその経緯ーWeb 版共同利用ツールシステムを立ち上げて」『私立大学図書館協会会報』122, 2004. 8, pp. 147-151.
- ・仁上幸治「電子パスファインダーをどう作るかー情報探索支援ツールの企画から公開までー」『短期大学図書館研究』25, 2005. 3, pp. 59-70.
- ・村田輝 他「教育情報案内パスファインダーによるレファレンスサービスの Web への展開ー東京学芸大学附属図書館における教育情報ポータルサイト"E-TOPIA"」（国際学術コミュニケーション特集）『大学図書館研究』（67）[2003. 3] pp. 37-49.

●講習会

- ・梅原由紀子「都立中央図書館の利用教育サービスーOPAC 検索講習会と図書館活用講座を実施して」（特集 図書館のホームページ）みんなの図書館.（通号 299）[2002. 3] pp. 56-65
- ・菅谷明子『未来をつくる図書館ーニューヨークからの報告ー』岩波書店、2003.（新赤版 837）
- ・牟田静香『人が集まる行列ができる講座』講談社、2007. 4. ¥840
- ・米澤 誠；阪脇孝子；高橋菜穂子「情報探索マニュアルの作成と職員向け講習会の実施：東北大学附属図書館での事例報告」大学図書館研究.（69）[2003. 12] pp. 34-41

●指導法

- ・岡本浩一『上達の法則ー効率のよい努力を科学する』PHP 研究所、2002. 5（PHP 新書）¥714
- ・多和田悟『犬と話をつけるにはー駄目な犬の困った飼い主にならないために』文藝春秋、2006. 6,（文春新書）
- ・中野民夫『ワークショップー新しい学びと創造の場ー』岩波書店、2003. 04（岩波新書）
- ・畑村洋太郎『「失敗学」事件簿ーあの失敗から何を学ぶか』小学館、2006. 4, ¥1300
- ・吉田新一郎『効果 10 倍の＜教える＞技術：授業から企業研修まで』PHP 研究所、2006（PHP 新書）

■資料7： 参考サイト一覧

【1】3大ポータルサイト

- 1)野口悠紀雄オンライン： <http://www.noguchi.co.jp/>
- 2)アリアドネ： <http://ariadne.ne.jp/>
- 3)実践女子大学図書館リンク集： <http://www.jissen.ac.jp/library/>

【2】Google 関連サイト

- 1)実験室： Google のプロトタイプ： <http://labs.google.com/>
- 2)soople： Google 専用コマンド不要の検索フォーム： <http://www.soople.com/>
換算電卓機能： http://www.soople.com/soople_intcalchome.php
- 3)Google Hacks: Google メニュー検索： <http://dicwizard.jp/jamming/search.php>
- 4)GAPS: Google API Proximity Search: 近接検索
<http://www.staggregation.com/cgi-bin/gaps.cgi>
- 5)Google 関連メーリングリスト)
 - ・Google Friends: <http://www.google.com/contact/newsletter.html>
 - ・googlefun: <http://www.freeml.com/ctrl/html/JoinForm/googlefun@freeml.com>

【3】検索サイトの最新情報

- 1)SEM リサーチ： 検索エンジンの最新情報ポータルサイト：<http://www.sem-research.jp/sem/>
- 2)Search Engine Showdown: 検索エンジンの最新ニュースと比較データ：<http://searchengineshowdown.com>
- 3)検索エンジンの検索： 世界中の検索エンジンを探す検索エンジン：<http://www.searchenginecolossus.com/>
- 4)shikencho.com 検索の鉄人 関裕司氏の「検索テクニック」 <http://www.shikencho.com/iron/irontext.php>
- 5)ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG) (岡本真：旬刊/4500 部/1998 年-) <http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/>

【4】Google 以外の主要な検索サイト

- ・AlltheWeb：ノルウェーの Fast 社開発： <http://www.alltheweb.com/>
- ・AltaVista: 1995 年 12 月登場のロボット型検索エンジンの老舗。1999 年から画像検索の老舗。
<http://www.altavista.com/>
- ・AAA!Cafe: 部分文字列検索が可能な「N グラム」方式； <http://aaacafe.ne.jp>

【5】パスファインダ

- ・私立大学図書館協会企画広報研究分科会パスファインダーバンク：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kikaku/pfb/>
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベース事業：<http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref.html>
- ・E-TOPIA(東京学芸大学附属図書館)教育系電子情報ナビゲーションシステム：
http://library.u-gakugei.ac.jp/etopia/index_p.html
- ・愛知淑徳大学図書館パスファインダー：http://www2.aasa.ac.jp/org/lib/j/netresource_j/pf_j.html
- ・Dublin Core Metadata Initiative (DCMI)：<http://dublincore.org/>
- ・統計データポータルサイト <http://portal.stat.go.jp/>
- ・情報科学技術協会： <http://www.infosta.or.jp/>
- ・電子政府の総合窓口： <http://www.e-gov.go.jp/>

【6】教材サイト

- ・TOSS インターネットランド： <http://www.tos-land.net/index2.php>
- ・世界の指導案： <http://jcultra.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/LPIW/>
- ・教育情報ナショナルセンター： <http://www.nicer.go.jp/>
- ・EDUREF： <http://www.eduref.org/>
- ・Library Explorer： <http://explorer.lib.uiowa.edu/>
- ・Internet Public Library： <http://www.ipl.org/>
University of Michigan School of Information. >> Pathfinders
- ・WARP (Web Archiving Project)：国会図書館インターネット資源選択的蓄積実験事業：<http://warp.ndl.go.jp/>

【7】講習会教材公開の先進事例

- ・愛知淑徳大学図書館： <http://www2.aasa.ac.jp/org/lib/>
- ・京都大学図書館<講習会><全学共通科目「情報探索入門」>：
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/homejm.html>
- ・九州大学図書館<情報リテラシー学習支援>： <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index.html>

- ・東京大学図書館<ネットでアカデミック on Web> : <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>
- ・東京工業大学図書館<講習会案内> : <http://www.libra.titech.ac.jp/>
- ・東京学芸大学図書館<講習会情報> : <http://library.u-gakugei.ac.jp/>
- ・京都精華大学情報館<マルチメディア講演会> : <http://www.kyoto-seika.ac.jp/johokan/>
- ・日本女子大学図書館<利用案内>[e ラーニング] : <http://www.lib.jwu.ac.jp/>
- ・東北大学図書館<情報探索の基礎知識> : <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

【8】教育用データベース提供

- ・データベース振興センター『情報の検索と活用』第2版, 2005. 3. <http://www.dpc.or.jp/>
授業・講習会用ソフトの複数貸与等のサービスあり。

【9】画像ネタの宝庫

- ・American Library Association : <http://www.ala.org/>

【10】使えるフリーソフト

- ・Google パック StarSuite:ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション、その他:<http://www.google.com/>
- ・OpenOffice : プレゼンテーションソフト「Impress」を含む統合オフィスソフト Sun Microsystems Inc. : <http://www.openoffice.org/>
- ・PrimoPDF 日本語版: PDF 形式変換ソフト : <http://www.xlsoft.com/jp/products/primopdf/index.html>
- ・アンケート君: アンケート集計ソフト : <http://www.vector.co.jp/soft/win95/business/se159548.html>
- ・富士通アクセシビリティ・アシスタンス: ウェブ診断ソフト : <http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/assistance/>

【11】『情報の達人』

- ・『情報の達人』ホームページ: <http://www.kinokuniya.co.jp> (左メニュー下方に入口)

■資料8 : 講師紹介 (最近の活動から)

仁上幸治 (にかみ・こうじ) : 早稲田大学図書館司書/東京家政大学・桜美林大学・亜細亜大学司書講習非常勤講師

◎ホームページ : <http://www.dens.ne.jp/~bbutler/~nikami-home/> ◎電子メール : nikamikoji@yahoo.co.jp

◎図書館サービス計画研究所(略称「トサケン」)代表: <http://tosaken.blogspot.com/> ★ML 会員募集中!

◎論文・記事 (単著)

- ・「コンビニに負けない生涯学習支援サービスを！ー市民の情報リテラシーと社会教育ー」『月刊社会教育』2000. 10, pp. 22-27.
- ・「図書館マーケティングとプランニング・プロセス論ー経営革新をめざす『実行可能な方法』の開発と導入ー」『専門図書館』no. 192, 2001. 3, pp. 8-18.
- ・「軽いノリと少しの勇氣ー利用者満足度調査は自信と希望の証ー」『図書館雑誌』2002. 11, pp. 872-875.
- ・「情報リテラシー教育と新しい図書館員像ー『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで」『館灯』41, 2003. 3, p. 39-52. (同誌ホームページ掲載)
- ・「司書課程の社会的評価の向上を目指す切り札ー情報検索演習における「受講生による授業評価」の集計結果報告ー」『法政大学教職資格課程年報』(法政大学キャリアデザイン学部紀要別冊) vol. 1、2003 年度、2004. 3. 30, pp. 66-76.
- ・「これは危機ではない？ー困った利用者よりずっと困った問題群ー」『図書館雑誌』98(11) [2004. 11], pp. 838-841.
- ・「総本山の進まない構造改革ー専門職崩壊のデフレスパイラルー」『大学の図書館』24(2), 2005. 2. (特集大学図書館と日本図書館協会) pp. 28-31.
- ・「オリエンはエンタメだ！ー素敵な印象を伝えるプレゼンテーションをー」『学図研ニュース』No. 229, 2005. 3. 1 (特集オリエンテーション) pp. 2-5.
- ・「大学図書館員のためのオリエンテーション技法ー印象づけを重視した構成・演出の改善の試みー」『医学図書館』52(1), 2005. 3 (特集: 情報リテラシー・サービス) pp. 15-24.
- ・「学術情報リテラシー教育における広報イメージ戦略ー司書職の専門性をどう訴求するかー」『情報の科学と技術』

55(7), 2005. 7, (特集：図書館の発信情報は効果的に伝わっているか?) pp. 310-317.

- ・「電子パスファインダをどう作るかー情報探索支援ツールの企画から公開までー」『短期大学図書館研究』25, 2006. 3, pp. 59-70.
- ・『「図書館の達人」から「情報の達人」へー利用者教育映像教材の進化 15 年の集大成』『図書館雑誌』101(4), 2007. 4, pp. 238-239.

◎単行書（共著）

- ・私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会編『図書館広報実践ハンドブックー広報戦略の全面展開を目指してー』日本図書館協会発売、2002. 9
- ・戸田光昭、他共著『改訂専門資料論』樹村房、2002. 10（新図書館学シリーズ第 8 巻）
- ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック（大学図書館版）』日本図書館協会、2003. 3
- ・三浦逸雄，野末俊比古（共編著）『専門資料論』日本図書館協会，2005. 6（菅野育子，高橋昇，仁上幸治共著）（JLA 図書館情報学テキストシリーズ，8）

◎最近の講演・発表等

2007

- ・2007.03.31-[学会発表] 日本図書館情報学会春季研究集会「図書館利用者プロフィールの再検討ー情報探索支援システム設計のための概念モデル」大阪市立大学梅田サテライト
- ・2007.06.01-[講演] 専門図書館協議会全国研究集会「ライブラリアンのための広報戦略マニュアルー専門性を訴求する5つのポイント」科学未来館
- ・2007.07.10-[講習会] 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会図書館広報実践講座パート 1「パスファインダーをつくる!」国立情報学研究所
- ・2007.08.24-[講演] 私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会研究会「情報リテラシー教材が図書館を変えるー『情報の達人』が切り拓いたものー」熊本学園大学
- ・2007.09.21-[講演] 岐阜県図書館・岐阜大学図書館講習会「パスファインダを作る(入門編)」岐阜県図書館研修室
- ・2007.10.18-[講演] 専門図書館協議会関西地区協議会イブニングセミナー「ライブラリアンのための広報戦略マニュアルー専門性を訴求する5つのポイント」大阪商工会議所
- ・2007.11.08-[講演] 図書館総合展フォーラム講演会「図書館グッズが利用者と館員を変える！ーイメージ戦略の先進事例ー」（埼玉福祉会主催），パシフィコ横浜： 10:30～12:00 第3会場
- ・2007.11.08-[講演] 図書館総合展フォーラム講演会「情報検索指導における良い例題・悪い例題(応用編)ーデータベースの特徴をどう紹介するかー」（日本図書館協会主催），パシフィコ横浜 15:30-17:00 第5会場

*講演予定（一部未定）

- ・2007.11.21-[講演] 大学図書館近畿イニシアティブ中級研修「大学図書館における広報戦略と情報発信ーホームページ、広報誌、利用案内・・・あなたの図書館は大丈夫ですか？ー」大阪市立大学学術情報総合センター
- ・2007.12.04-[講演] 私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会研究会「デジタルリソースの活用をどう促進するかー『情報の達人』による授業の効果ー」（仮題），名古屋ガーデンパレス
- ・2008.03.16-[講演] 日本図書館協会図書館利用教育実践セミナー(11)「情報検索指導における良い例題・悪い例題(中級編1)ーデータベースの特徴をどう説明するかー」（仮題），キャンパスプラザ京都

★著作と講演のリスト（一部は論文全文掲載）や関連資料はホームページ参照。

以上 ■□■（配付資料／2007.11.2 作成）